

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名 国道1号 <small>みなみふつかまち</small> 南二日町交差点	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 <small>みしま みなみふつかまち</small> 静岡県三島市南二日町	延長 0.5 km	
事業概要 国道1号は、三島市から清水町、沼津市を経て沼津・三島市街を東西に横断する幹線道路です。また、国道136号は下田市を起点とし、伊豆市を経て三島市に至る伊豆半島の骨格を成す基幹路線です。 本事業の南二日町交差点は、国道1号と136号の結節点における交差点改良事業であり、①慢性的な渋滞の解消、②交通事故の削減、③道路の冠水対策を主な目的として事業を推進しています。		
H元年度事業化	H4年度都市計画決定	H6年度用地着手
H11年度工事着手		
全体事業費	64億円	事業進捗率
95%		供用済延長
- km		
計画交通量		
22,200台/日		
費用対効果 分析結果	B/C <small>(事業全体)</small> 1.0 <small>(残事業)</small> -	総費用 <small>(事業全体)</small> 85億円 事業費：82億円 維持管理費：3.3億円
総便益 <small>(残事業)/<small>(事業全体)</small></small> 86億円 走行時間短縮便益：80億円 走行経費減少便益：4.7億円 交通事故減少便益：0.93億円		基準年 平成22年
感度分析の結果 交通量変動：- 事業費変動：- 事業期間変動：-		
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・南二日町交差点の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・利便性の向上が期待できるバス路線（沼津登山東海バス：沼津駅～遺伝研坂下）が存在する。 ②個性ある地域の形成 ・伊豆地域の主要な観光地へのアクセス向上が期待できる。 ③無電柱化による美しい町並みの形成 ・対象区間が対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけられている。 ④災害への備え ・第1次緊急輸送道路に位置づけられている。 ⑤地球環境の保全 ・CO2排出量が削減が見込まれる。 ⑥生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。		
関係する地方公共団体等の意見 東駿河湾環状道路塚原ICから国道1号経由で三島駅方面に向かう際には、南二日町交差点の利用が望ましいが下り線ランプが右折禁止になっており、南二日町交差点を利用できない。そのため三島駅方面へ向かう際には別ルートで迂回しなくてはならず、産業面、観光面への影響が懸念されることから三島駅方面へのアクセス改善が望まれており、三島商工会議所より早期供用の要望を受けている。（平成21年9月）		
県知事の意見 本事業は、三島市中心部の慢性的な渋滞の解消や安心・安全な生活環境の確保を図るとともに、伊豆半島へのアクセスを向上する重要な事業です。 今後も、コスト削減の徹底とともに、効果が早期に発現されるよう事業の推進をお願いします。また、各年度の実施に当たっては、引き続き県と十分な調整をお願いします。		
事業評価監視委員会の意見 「事業継続」することは「妥当」である。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		

- ・南二日町交差点は伊豆地域の南北交通の要所である南二日町交差点の渋滞損失時間は、静岡県内国道平均の1.4倍以上。
- ・三島市街地中心、静岡県においても事故が多く、静岡県内国道平均の約3倍。
- ・南二日町交差点は伊豆半島への要所であるが、慢性的な渋滞や大雨による冠水によりアクセスルートとしての機能が低下

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は95%、用地買収の進捗率は約100%である。(平成22年度見込み)
- ・平成19年4月上り線OFFランプ右折2車化
- ・平成21年7月東駿河湾の暫定供用にあわせ下り線OFFランプ左折2車化

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・早期完成供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・横断歩道橋下部工の基礎の設計見直しによるコスト削減を図る予定である

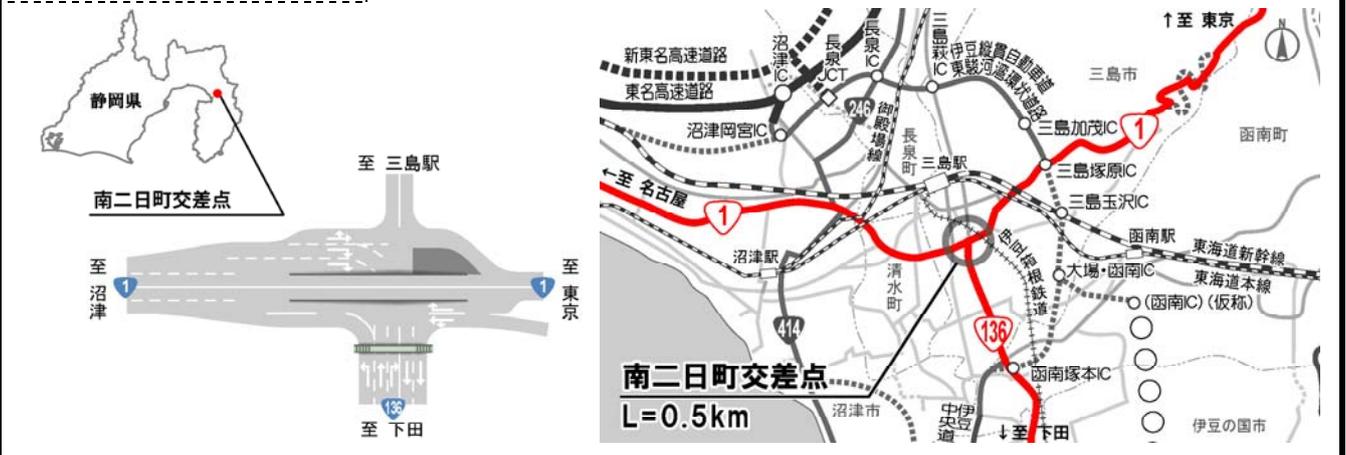
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。